

WORLD PRESS PHOTO

6月17日(土) ⇒ 7月30日(日)

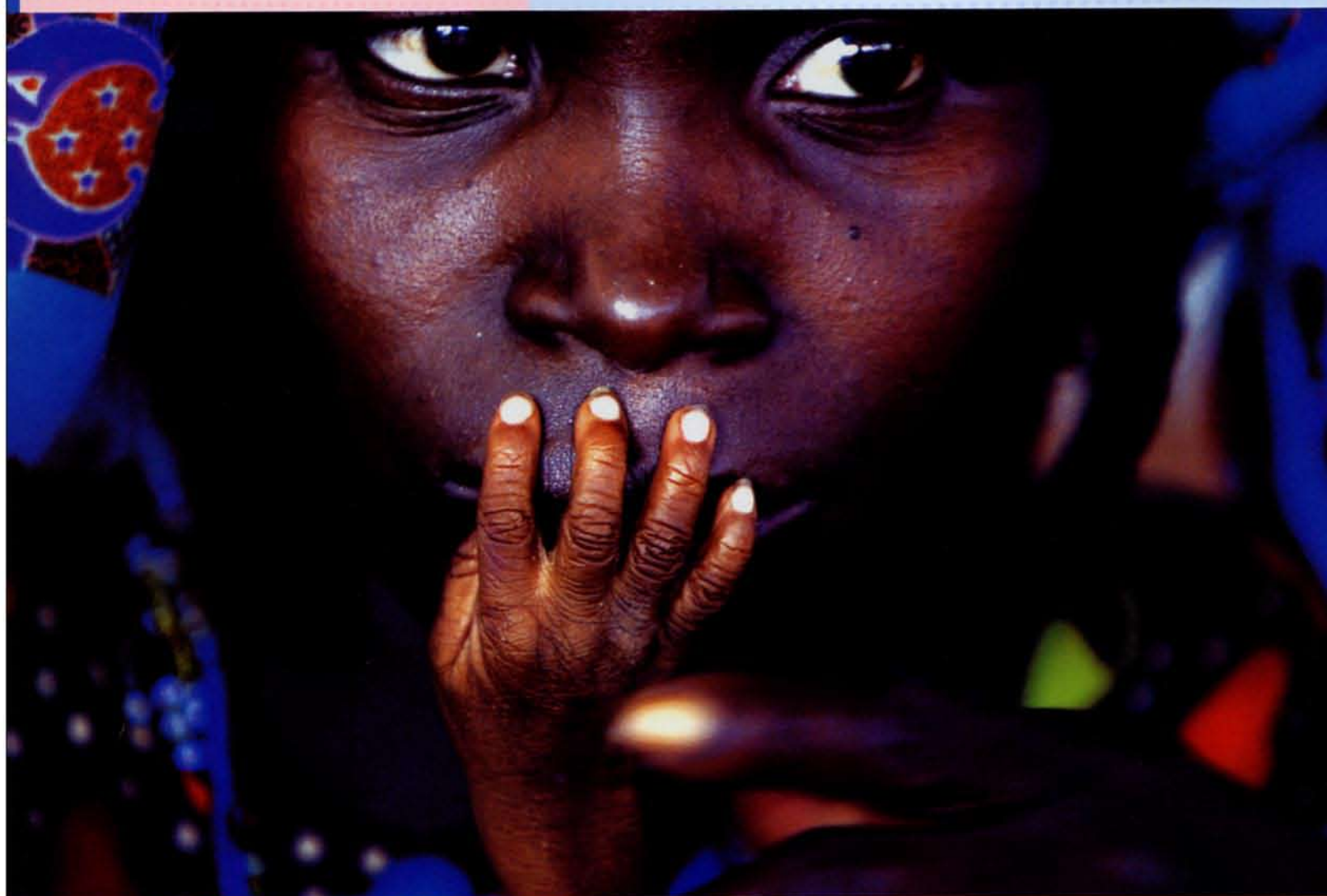
月曜休館

(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日。7月17日は開館、18日は休館)

10:00~18:00(木・金は20:00まで)

入館は開館時間の30分前まで

世界報道写真展 2006



2006年世界報道写真大賞 フィンバー・オライリー(カナダ/ロイター) 「緊急食糧支援センターの母と子」 ニジェール、タウア

東京都写真美術館 2階展示室

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口より徒歩7分 Tel 03-3280-0099
http://www.syabi.com



主催 世界報道写真財団 朝日新聞社
共催 東京都写真美術館
後援 オランダ王国大使館 社団法人日本写真協会 社団法人日本写真家協会
協賛 キヤノン株式会社 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 TNT
協力 ウェスティンホテル東京
観覧料 一般 700円(560円) 学生 600円(480円)
(税込み) 中・高生/65歳以上 400円(320円) ()内は20名以上の団体料金
小学生以下と障害をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料
65歳以上は第3水曜日無料 ※観覧できるものをご希望頂く場合がございます
お問い合わせ 朝日新聞社文化事業部「世界報道写真展」係 Tel 03-5540-7450



WORLD PRESS PHOTO



ニュースの中の人々
トッド・ヘイスター(米国/ロッキーマウンテンニュース紙/ボラリス・イメージズ)
「戦死した海兵隊員を背負ってリノ空港に到着したジェームズ・キャシー少尉の遺体」



スポーツニュースの部
エドモンド・テラコピアン(イギリス/プレス・アソシエーション)
「ロンドン地下鉄爆破事件の生存者」
ロンドン

母親の唇に当てた赤ちゃんの手にあなたは何を感じますか?

今年の審査員が選んだ世界報道写真大賞はアフリカ・ニジェールの緊急食糧支援センターで撮影された母子の写真です。

昨年、事件、事故や自然災害は人類を苦しめ、人間が引き起こす紛争は多くの命を奪って止むことがありません。オランダで開かれた世界報道写真コンテストの応募作品は史上最多の8万3000点。カメラマンが現場に立ち合い、シャッターを押して発信したのです。厳選された約200点の写真を正面から受け止めて見てください。

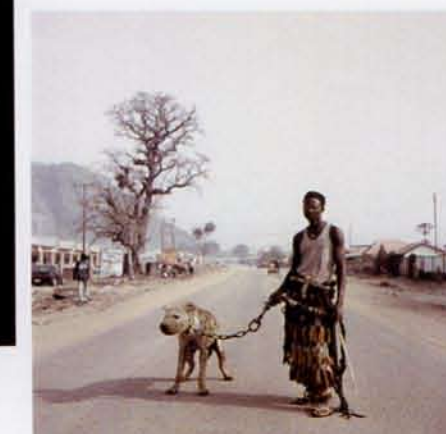
きっとこれまで気づかなかった社会派の自分を発見するでしょう。



スポーツ・アクションの部
ドナルド・ミレイユ(米国/ゲッティ・イメージズ)
「サンタクララ国際水泳大会でのアーロン・ピアソル」
6月26日



現代社会の問題の部
ヤニス・コトス(ギリシャ/ボラリス・イメージズ)
「父親の肩替えを手伝う少年」
シエラレオネ



ポートレートの部
ピーター・ビューゴ(南アフリカ/コーピス)
「マラム・ガハディマ・アハマドとハイエナのジャミス」



スポーツ・フィチャーの部
エンリ・アグデロ(コロンビア/エル・コロンビア/紙)
「闘牛士」メデリン



自然の部
ポール・ヘルマンセン(ノルウェー/オリオン・フォーラグ ゲッティ・イメージズ)
「北極クマ」スヴァールバル諸島

アート&エンターテインメントの部 オーサ・シェストレム(スウェーデン)「バレエ学校」モルドヴァ

